

令和5年度 延岡しろやま支援学校 学校関係者評価

学校経営ビジョン(学校経営方針)

ビジョン1 「チャイルド・ファースト&チャレンジド・ファースト」を柱とした学校運営

ビジョン2 「社会に関かれた教育課程」の具現化を目指した3つの視点(しろやまOPQ)によるカリキュラム・マネジメントの推進

O…Original(オリジナル) 恵まれた教育資源を生かした、本校ならではの教育実践

P…Pride(プライド) 県北のセンター校としての矜持(きょうじ)を示す取組

Q…Quality(クオリティー) 卒業後の豊かな生活を支える生涯学習の推進

ビジョン3 子供の学びを支え、可能性を最大限に伸ばす教育環境の整備

ビジョン4 「学校の信頼回復」と「働き方改革」

※評価の基準 4:十分達成された 3:概ね達成された 2:やや不足な点がある 1:ほとんど達成されていない

	具体的取組事項	評価	評価コメント
ビジョン1	(1) 子どもの権利条約、障害者権利条約の理解促進と人権感覚の涵養を図り、併せてコンプライアンス遵守及び言語環境の整備を図る。	3.3	○子供たちの良さを伸ばす声かけ、暖かい雰囲気があった。 ○今後も引き続き取り組むべき課題である。 ○咄嗟の時には感情的になってしまうこともあるかもしれないが、意識されていてありがたい。
	(2) 校訓及び新しい幼児児童生徒像に基づく教育活動の充実 「表現」 自ら考え、自分らしく表現する子ども (思考力・判断力・表現力等) 「実践」 学んだことを生かし、実践する子ども(知識・技能) 「挑戦」 夢をもち、自ら挑戦する子ども(学びに向かう人間性等)	3.6	○子供の生き生きとした表情が見られた。 ○しろやま祭にて、様々なことにチャレンジする子供たちの姿を見て、感動した。 ○いろいろな事に挑戦、体験させていただき、ありがたい。
	(1) 卒業後の視点を大切にされたカリキュラム・マネジメント ・自立や社会参加の基礎となる意欲と力の育成 ・地域とつながる教育活動 ・幼稚部から高等部まで一貫したキャリア教育の推進	3.0	○職業コースの開設など、とても期待している。 ○障がいによって課題となるものが違ってくるので、それぞれの実情に合わせたカリキュラムになるとよい。 ○聴覚障がい教育部門に高等部ができるとうい。
ビジョン2	(2) 複数障がいに対応した特別支援学校教職員としての専門性の向上 ・「基本となる障がいの理解」の徹底 ・OJTの推進と専門的指導力の向上 ・オンライン研修や自主研修等OFFJTの推進と研修機会の充実 ・学びの保障のためのICT機器の積極的な利活用	3.3	○専門性の高い支援・指導が保護者の安心につながっている。 ○ICT機器をもっと増やし、試してみる機会をもっと持って欲しい。
	(3) スポーツ・文化芸術活動の推進 ・教育活動の工夫と参加・発表機会の充実 ・外部機関連携による作品展や校外販売等の推進	3.6	○充実した活動がなされており、子供の自信につながっている。 ○郊外販売での活動で、生徒が生き生きとしていた。
ビジョン3	(1) ICT教育の推進と活用 ・オンライン授業や遠隔授業等を取り入れた教育活動の推進	3.1	○双方向に操作できる活動が必要である。 ○本校と分校の交流会、授業を取り入れてもよいのではないか。
	(2) 感染症や災害の発生への対応 ・学習指導、生徒指導、災害時対応等の視点で環境整備・校内美化 ・防災委員会を中心とした感染症対策や災害時対応、危機管理対応の強化	3.3	○学校生活において、命を守ることを優先に職員間の共通理解を徹底して取り組んで欲しい。 ○避難訓練がしっかりされている。
ビジョン4	(1) 「不祥事は絶対起こさない。」という強い覚悟と「高い倫理意識」をもった学校の信頼回復	3.6	○意識して取り組んでいると思う。 ○いつもていねいな対応をしてもらっている。
	(2) ホームページ、ツイッター、マスコミ等を活用した積極的発信	3.6	○ホームページ、インスタグラム等での発信はとてもよい。校長だよりも楽しみにしている。 ○発信はされているが、知られていないことがある。
	(3) 「見える化」やICT活用による事務作業等の効率化と、質の高い教育活動へ向けた「働き方改革」の推進	3.0	○新しいことに取り組むには、どうしても時間が必要となる。仕事の効率化を図り、教員の時間確保と負担軽減が必要なのではないか。 ○今年度より期間を設けて下校時間を早めている工夫がされているが、もっと必要ではないか。